

令和4年度 道徳授業公開 6年生

年 組	6年 2組
教 材 名 (出展)	お母さんへの手紙 (東京書籍)
内容項目	生命の尊さ
あらすじ 話し合ったこと	重い心臓病で亡くなった佐江子さんが、十数時間に及ぶ手術に臨むことになった。その手術前に、14年間の感謝の気持ちと、手術に臨む気持ちを母へと書き記した。なぜ、「命」を取り扱うことが多いのか、また「命の大切さ」について、どう思い何を感じたのか話し合った。
児童の反応 (感想)	<p>「命」を取り扱うことに対しては、大切である、かけがえのないものといった観点から何度も内容項目として取り扱っているという声が上がった。しかし、授業開始の時点では自分にとっての自分の命という考えが児童の中には強くありました。</p> <p>教材を通し、命の大切さについて考えることで、他者にとっての自分の命や、自分にとっての他者の命について考えることができました。そして、保護者にとって自分の命とは、存在とはどのようなものなのか、改めて話してみたいという感想が上がりました。</p> <p>また、様々な場合の命の尊さや大切さについて考えを巡らせることができました。</p>

